

4) 小児在宅静脈栄養患児における埋め込み型カテーテルの現状と合併症

飯沼 泰史・大滝 雅博
 金田 聡・八木 実(新潟大学)
 内山 昌則・岩渕 眞(小児外科)

II. 特 別 講 演

「自己組織再生による頭蓋骨及び硬膜の再建」

京都大学医学部脳神経外科講師

宮 本 享 先生

第42回新潟造血管腫瘍研究会

日 時 平成12年3月31日(金)

18:00

会 場 新潟大学医学部

有壬記念館 2階

I. 一 般 演 題

1) 急性化膿性甲状腺炎を合併した急性骨髄性白血病の2例

今井 千速・柿原 敏夫
 渡辺 輝浩・関東 和成
 五十嵐幸絵・堀田 広満(新潟大学)
 田中 篤・内山 聖(小児科)

【症例1】11才男児。AML (FAB: M1) と診断され入院。染色体分析で t(16:21) 転座を認め、nested PCR 法で TLS/FUS-ERG 融合遺伝子を認めた。CCLSG AML98プロトコールで治療を開始し完全寛解を得た。寛解導入療法後、肝臓瘍を合併したが、約3週間の抗生剤、抗真菌剤の投与により軽快した。化学療法第4コース (high dose Ara-C, VP-16) 開始後26日目、造血回復後かつ IPM/CS の投与中に、突然発赤を伴う有痛性前頸部腫脹が出現した。CRP 高値、甲状腺機能亢進、サイログロブリン上昇、頸部 CT・エコーで甲状腺の腫大、両葉の微小膿瘍を認め、急性化膿性甲状腺炎と診断した。CLDM の併用で治癒した。

【症例2】14才女児。AML (FAB: M2) と診断され

入院。CCLSG AML98プロトコールで治療を開始し完全寛解を得た。化学療法第4,5,7コースの後にα群連鎖球菌による敗血症を合併し、そのうち7コース目には成人呼吸窮迫症候群を合併した。第8コース (Ara-C, THP-ADR, VCR) の終了後、造血回復後かつ PAMP/BP + FMOX の投与中に、右頸部に有痛性腫脹が出現、CRP 高値、甲状腺機能亢進、サイログロブリン上昇を認め、急性化膿性甲状腺炎と診断した。CLDM 単剤投与で治癒した。

【まとめ】化学療法の合併症としての急性化膿性甲状腺炎の報告は稀である。一般に、急性化膿性甲状腺炎の半数以上に Pyriform sinus fistula が存在するとされているが、2例ともに認めなかった。先行する敗血症、粘膜炎などに起因する血行性あるいはリンパ行性の感染経路が考えられた。2例ともに原因菌の同定はできなかったが、β-D-グルカンの上昇、カンジダ抗原の陽性化を認めず、抗生剤のみで再発なく治癒していることから、細菌感染と考えられた。

2) 当科における同種骨髄移植後肺合併症の検討

片岡 哲・小川 淳(県立がんセンター)
 浅見 恵子(新潟病院小児科)

【目的】新潟県立がんセンター新潟病院小児科にて過去10年間で経験した同種骨髄移植後肺合併症について検討した。

【対象】1989年11月から1999年11月までに当科で施行した同種骨髄移植症例37例(2例が再移植施行)を対象(男26例,女11例)とした。症例の基礎疾患は急性リンパ性白血病17例,急性骨髄性白血病7例,慢性骨髄性白血病7例,再生不良性貧血2例,その他の悪性疾患4例であり,移植時年齢は1-21才(平均11.7才)であった。

【結果】9例に移植後肺合併症が認められ,臨床診断は間質性肺炎(肺GVHD疑い)2例,肺水腫,肺線維症,真菌性肺炎,閉塞性細気管支炎,気管支肺炎(原因不明),放射線肺臓炎,放射線肺臓炎+カリニ肺炎がそれぞれ1例であった。肺合併症により2例が死亡した。他の7例は各種治療にて症状が改善したが,うち4例は再発により死亡した。

【考察】同種移植後の肺合併症は病像が多彩で臨床診断が困難な例が多く,可能であれば早期から肺生検,BAL等に基づく積極的治療が必要と考えられる。